

鹿島共同再資源化センター株式会社

[法人の概要]

平成23年7月1日現在

代表者名	代表取締役社長 山本 久司(常勤)	県所管部課	生活環境部廃棄物対策課	
所在地	神栖市東和田21番地3	電話番号	0299-95-1111	
ホームページURL		E-mailアドレス	ksrpc0104@kr-c.co.jp	
資本金(基本財産)	3,308,000	千円	設立年月日	平成10年12月1日
主な出資者	出資順位	出資者名	出資額(千円)	出資比率
	1	茨城県	500,000	15.1%
	2	日本政策投資銀行	500,000	15.1%
	3	鹿島地方事務組合	500,000	15.1%
	4	三菱化学	500,000	15.1%
	5	住友金属工業	500,000	15.1%
	その他		808,000	24.4%
設立的	鹿島地域(鹿嶋市, 神栖市)において, 一般廃棄物から製造した固形燃料と産業廃棄物を混焼し, その熱エネルギーを電気や蒸気として回収することで, 地元2市と鹿島地域の立地企業が共同して廃棄物を処理するシステムを形成することにより, 資源循環型の地域社会作りを推進する。			

[事業の概要]

(単位:千円)

事業名	平成20年度	平成21年度	平成22年度	内 容	
事業1	産業・一般廃棄物及びRDFの処理、焼却熱を利用した電気事業	949,735	1,051,138	1,035,648	鹿島臨海コンビナート内産業廃棄物の共同処理モデル事業及び自治体ごみの固形燃料の広域処理モデル事業及びダイオキシン対策
	全体事業に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	
事業2					
	全体事業に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
事業3					
	全体事業に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
その他事業	事業1~3以外	0	0	0	
	全体事業に占める割合	0.0%	0.0%	0.0%	
全体事業		949,735	1,051,138	1,035,648	指定管理者
	全体割合	100.0%	100.0%	100.0%	

＜ 鹿島共同再資源化センター株式会社 から県民のみなさまへ ＞

当社の事業は、国・県が掲げた資源循環型社会の構築に向けた、全国初の広域ゴミ処理システムのモデル事業として、大変大きな意義を持っております。地域と企業が一体となったサーマルリサイクルシステムを築き上げ、地域の環境保全に大きく貢献しております。

これまでスポット廃棄物の受け入れなどにより一時的に収益面が好転したことはありましたが、社会全体の3Rの推進等により産業廃棄物を中心に当社の処理量は漸減傾向が続いており、当社経営は厳しいものがあります。

平成22年下期以降営業エリアを神栖・鹿嶋市全域に拡大し、処理量を更に増加させること、修繕費の圧縮や運転コストの低減等により、売上高の拡大と経費の削減を図って参りたいと考えております。両市の震災廃棄物を処理したように、引き続き地域の皆様や企業から信頼され続けるセンター、安全・安定運転を継続できるセンターとなるよう、役員・社員一同力を合わせて努力する所存でございます。

平成24年2月 代表取締役社長 山本 久司

[経営状況] 鹿島共同再資源化センター株式会社 (単位:千円)

区 分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	増減数	増減理由
損益の状況	売上高	949,735	1,051,138	1,035,648	△ 15,490	産廃減少, 震災の影響
	売上原価	995,617	915,062	913,460	△ 1,602	処理量減, 運転コスト改善
	売上総損益金額	△ 45,882	136,076	122,188	△ 13,888	
	販売費及び一般管理費	103,714	91,198	90,394	△ 804	
	うち役員人件費(原価計上分含む)	46,486	35,065	28,564	△ 6,501	役員数削減
	うち職員人件費(原価計上分含む)	119,803	121,739	140,433	18,694	直採社員増
	営業損益金額	△ 149,596	44,878	31,794	△ 13,084	
	営業外収益	14,480	9,461	10,804	1,343	
	営業外費用	5,082	4,408	3,734	△ 674	
	経常損益金額	△ 140,198	49,931	38,864	△ 11,067	
	特別利益	0	1,334	0	△ 1,334	
	特別損失	8,517	0	19,810	19,810	DCS更新に伴う除却損
	法人税・住民税・事業税	1,004	1,004	1,004	0	
	当期純損益金額	△ 149,719	50,261	18,050	△ 32,211	
繰越利益剰余金	△ 1,456,032	△ 1,405,771	△ 1,387,721	18,050		
貸借対照表	資産	3,239,058	3,151,384	2,973,649	△ 177,735	
	流動資産	543,098	567,459	478,841	△ 88,618	預金・営業未収入金減
	固定資産	2,695,960	2,583,925	2,494,808	△ 89,117	DCS更新に伴う除却損更新・除却
	繰延資産	0	0	0	0	
	負債	1,387,091	1,249,155	1,053,370	△ 195,785	
	流動負債	263,238	312,690	302,161	△ 10,529	未払金減
	うち短期借入金	185,600	185,600	185,600	0	
	固定負債	1,123,853	936,465	751,209	△ 185,256	
	うち長期借入金	1,097,200	911,600	726,000	△ 185,600	政投銀返済
	純資産	1,851,967	1,902,229	1,920,279	18,050	
資本金	3,308,000	3,308,000	3,308,000	0		
利益剰余金等	△ 1,456,033	△ 1,405,771	△ 1,387,721	18,050		
県財政関与状況	補助金	0	0	0	0	
	委託料	0	0	0	0	
	貸付金	0	0	0	0	
	その他(分担金・負担金・出資金等)	0	0	0	0	
	合計	0	0	0	0	
	財政的関与の割合(%)	0.00%	0.00%	0.00%	0.0	
	損失補償・債務保証契約に係る債務残高(期末)	0	0	0	0	
借入金残高(期末)	0	0	0	0		
合計	0	0	0	0		

主要経営指標	算式	平成20年度	平成21年度	平成22年度	増減P	備考
人件費比率	人件費/売上高	17.5%	14.9%	16.3%	1.4	
販売管理費比率	販売費・一般管理費/売上高	10.9%	8.7%	8.7%	0.1	
自己資本利益率	当期利益/自己資本	-8.1%	2.6%	0.9%	△ 1.7	
総資産回転率	売上高/総資産	0.3	0.3	0.3	0.0	
売上高経常利益率	経常利益/売上高	-14.8%	4.8%	3.8%	△ 1.0	
流動比率	流動資産/流動負債	206.3%	181.5%	158.5%	△ 23.0	
借入金比率	借入金残高/総資本	39.6%	34.8%	30.7%	△ 4.2	

[組織]

7月1日現在の人数		平成21年		平成22年		平成23年		増減数	増減理由	
		県派遣	県OB	県派遣	県OB	県派遣	県OB			
役員	常勤理事・監事	5	0	4	0	3	0	△ 1	役員人件費削減	
	非常勤理事・監事	9	0	9	0	9	0	0		
	計	14	0	13	0	12	0	△ 1		
職員	管理職	6	0	5	0	7	0	2	人事異動に伴う一時的な増員	
	一般職	20	0	24	0	24	0	0		
	嘱託・臨時職員等	0	0	0	0	0	0	0		
	計	26	0	29	0	31	0	2		
当期常勤職員の年齢構成		~20代	30代	40代	50代~	合計	平均年齢	プロパー職員平均勤続年数		
		1	11	3	16	31	47.3	歳	3.4 年	
								プロパー職員平均給与(年額)		4,176.5 千円
								常勤役員平均報酬(年額)		6,515.2

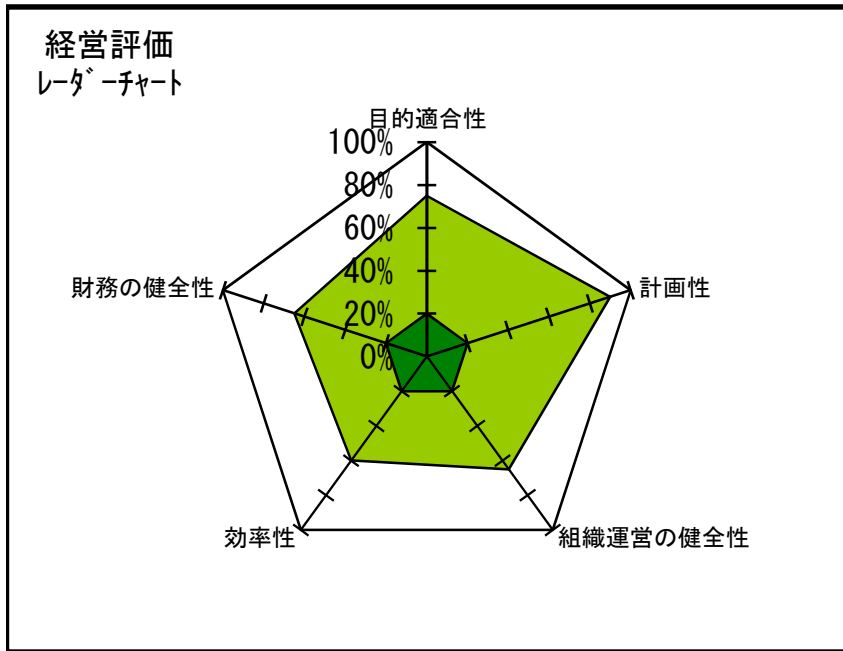
[評点集計]

評価の視点	評価項目数	評点	満点	得点率
目的適合性	11	15	20	75.0%
計画性	8	18	20	90.0%
組織運営健全性	9	13	20	65.0%
効率性	11	12	20	60.0%
財務健全性	10	13	20	65.0%
合計	49	71	100	71.0%

企業会計用

鹿島共同再資源化センター株式会社

警戒指標



《評価の視点》

目的適合性	法人が行っている事業と当初の設立目的が適合しているか
計画性	経営目的、経営方針が各種計画に反映され、計画・実行・見直しが行われているか
組織運営健全性	組織、人事、財務等の内部管理体制が適切に整備・運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切か
効率性	組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているか
財務健全性	法人の財務体質が健全であるか、また、各事業の採算性がとれているか

[法人の自己評価（経営概況、経営上の課題・対策等）]

目的適合性	計画性	組織運営健全性	効率性	財務健全性
地域の環境保全を通じて地域社会に貢献するという設立目的に沿って事業活動を継続している。	当社は会社設立時に創業10年で単年度黒字、22年で繰越損失の解消を計画した。平成17年度の減損会計適用で繰越損失は拡大したが、平成21年度に行った主要株主による経営問題検討委員会の議論を経て、平成21・22年度は黒字を継続している。また、借入金の返済が終了する平成27年度までの中期5ヶ年計画を策定し、計画の達成に努力している。	「内部統制システム構築の基本方針」及び「企業倫理要綱」を制定しているほか、「リスクマネジメント規則」を制定し、会社業務の適正性を確保するための整備を行っている。	当社の会社設立時からの様々な制約条件を関係先のご理解を得て逐次改善を図っており、平成22年度は特別受託を除き実質的に黒字体質の確立が図られたが、今後とも売上高の拡大、諸経費の削減に努め、黒字の継続に努めたい。	累積損失は平成21年度末より若干減少できたが、今後とも低価格に抑えられている処理品の単価改訂、営業エリア拡大による受託量処理費等の経費圧縮に努め累積損失の早期解消に努めたい。
今後の事業展開の方向	<p>社会全体の環境意識の高まりの中で、企業・一般家庭における廃棄物削減、リユースやリサイクルが一層促進されるほか、世界的景気後退、東日本大震災の影響を受け、当社経営は引き続き厳しい状況が続くものと思われる。</p> <p>引き続き取引先の要望に適切に対応するなどして売上げの拡大を図って参りたい。また、コストに関しても灰処理費・補修費・諸経費削減に努めて参りたい。</p> <p>今後、産業廃棄物処理業界は淘汰が予測されるので、取引先に安心感を抱いて頂けるよう、エコアクション21及び優良事業所認定を目指していきたい。</p>			

[法人担当課の意見]

目的適合性	計画性	組織運営健全性	効率性	財務健全性
廃棄物の焼却熱を利用した発電事業は、設立目的に適合している。	借入金の返済が終了する平成27年度までの中期5ヶ年計画を策定し、事業を実施している。	内部統制システム構築の基本方針及び企業倫理要綱に加え、平成21年6月に新たにリスクマネジメント規則を制定し、会社の業務の適正性を確保する体制を整備している。	平成22年度の売上原価は、処理量減や運転コストの改善により、前年度の915百万円から2百万円減少したが、引き続き売上高の増加及びコスト削減を図っていく必要がある。	平成21年度に引き続き平成22年度も黒字を達成し、累積損失を減少させた。 中期5ヶ年計画に基づき、今後も継続的に黒字を達成し、累積損失の解消を図っていく必要がある。
法人担当課の意見	事業内容は、当センターの設立目的に合致するとともに、県で推進している「循環型社会の形成」にも適合している。 また、平成19年度の神栖市の有機ヒ素汚染土壌の処理や、東日本大震災に伴う災害廃棄物の処理等で、地域社会に大いに貢献している。 一方で、累積損失が1,388百万円となっているため、引き続き、売上高の増加及び経費の削減に努め、損益を改善する必要がある。			

[経営目標]

区分	指標名	単位	H20実績	H21実績	H22目標値	H22実績	達成度(%)	H23目標値	
経営目標	事業成果	1 処理量	トン	51,356	49,421	48,255	48,625	100.0%	49,015
		2 売上高	百万円	949	1,051	1,018	1,036	100.0%	1,035
	健全性	1 自己資本比率	%	57	58	58	58	100.0%	58
		2							
	効率性	1 従業員1人当たり売上高	千円	36,500	38,931	36,357	34,533	95.0%	34500
		2 従業員1人当たり処理量	トン	1,975	1,830	1,723	1,621	94.1%	1,634
平均目標達成度							97.8%		

[総合評価]

取組みを強化すべき視点	目的適合性	計画性	組織運営健全性	効率性	財務健全性
	概ね良好	改善の余地あり	改善措置が必要	緊急の改善措置が必要	
総合的所見等	<p>売上高が減少に転じ、経常利益も平成21年度を下回る結果となっている。 ゼロ・エミッション及び3Rによる廃棄物削減が進展しており、経営環境は年々厳しくなっていることを踏まえ、引き続き経費の削減を図るとともに、営業力の強化等により売上高の増加に努められたい。</p>				
総合的所見等に係る対応	<p>営業区域を鹿嶋・神栖両市内全域に拡大したことなどによる売上高の増加及び各種薬剤費の縮減等による経費削減により、平成23年度の経常利益は、平成21年度よりも大幅に増加したところである。 また、平成22年度の経常利益が前年度を下回った主な要因は、東日本大震災の影響による産業廃棄物受入量の減少及び中央管理システムの更新に伴う特別損失の計上によるものであるが、廃棄物の発生量の減少が進行していることから、引き続き経営改善に努めるよう指導していく。</p>				